

## Azthreonom (SQ 26,776) の呼吸器感染症に対する臨床的検討

高見 俊輔・河野 修興・田辺 賢・山木戸道郎・西本 幸男

広島大学医学部第二内科

Azthreonom の臨床的検討を 4 例について行なった。対象疾患は、気管支肺炎 2 例、びまん性汎細気管支炎 1 例、肺気腫に合併した気道感染症 1 例である。

投与方法は Azthreonom (SQ 26,776) 1g を 1 日 2 回点滴静注し、日数は 7 日から 20 日間であった。

Azthreonom の臨床効果は、有効 2 例、やや有効 2 例であった。

副作用および肝機能異常は、1 例も無かった。

Azthreonom (SQ 26,776) は L-threonine から全化学合成された  $\beta$ -ラクタム単環を有する抗生物質である。In vitro 試験において、緑膿菌、大腸菌、*Proteus*、*Enterobacter*、*Serratia* 等に対して強い抗菌力を持ち、 $\beta$ -ラクタマーゼに対しても極めて安定な抗生物質である。またアレルギー反応の発現、腎毒性も弱い。このたび著者らは、当科に入院した肺感染症の患者について臨床治験の機会を得たので報告する。

## I. 対象と方法

対象は昭和 57 年 11 月より昭和 58 年 7 月までの当科入院患者 4 症例で、年齢は 33 歳から 68 歳であった。対象疾患は、気管支肺炎 2 例、びまん性汎細気管支炎 1 例、肺気腫に合併した気道感染症 1 例であった。投与方法は Azthreonom (SQ 26,776) 1g を 1 日 2 回点滴静注し、期間は 7 日から 20 日間であった。効果判定基準は、臨床症状、血液生化学的検査、喀痰培養成績および胸部 X 線像の改善を基準とし、著効、有効、やや有効、不明、無効の 5 段階で判定した。

## II. 成績

症例は Table 1 に示したとおりで、以下その概要を述べる。

症例 1 は 52 歳の男性である。基礎疾患に気管支拡張症があり、また既往に 26 歳時、肺結核で胸郭形成術を施行されている。昭和 57 年 10 月初旬より発熱、血痰を訴え、CMZ 4g/日点滴静注 14 日間および Tobramycin 120 mg/日筋注 10 日間施行し、臨床症状が軽度改善したが、血痰は持続した。11 月中旬より再び上記症状が増悪したため、11 月 16 日当科入院となった。臨床症状、胸部 X 線所見より気管支肺炎と診断し、Azthreonom (SQ 26,776) 1g  $\times$  2 回  $\times$  7 日間の投与を行なった。臨床症状においては軽度の改善を認めたが、赤沈亢進、CRP 陽性などの炎症所見が持続し、効果はやや有効と判断した。

症例 2 は 33 歳の男性である。昭和 45 年頃より時々、咳嗽、膿性痰が出現していたが放置していた。昭和 55 年頃より咳嗽、膿性痰が増強し、近医受診し、投薬治療を受けたが症状は一進一退であった。昭和 58 年 2 月下旬より咳嗽、膿性痰が再び増強し、2 月 28 日当科入院となった。臨床症状、胸部 X 線所見よりびまん性汎細気管支炎と診断し、Azthreonom (SQ 26,776) 1g  $\times$  2 回  $\times$  16 日間の投与を行なった。臨床的には咳嗽の減少および膿性痰の減少がみられ、喀痰の細菌検査では、投与前に分離された *Haemophilus influenzae* の消失がみられたため、有効と判断した。

症例 3 は 68 歳の男性である。基礎疾患に肺気腫を有していた。昭和 58 年 1 月中旬より、呼吸困難、発熱出現。当科入院後、Cefmetazole 4g/日、Piperacillin 4g/日の点滴静注 14 日間、Amikacin 200mg/日筋注 7 日間施行し、臨床症状の軽度の改善を認めたが、赤沈亢進、CRP 陽性などの炎症所見の改善はみられなかった。3 月下旬再び、上記症状増悪したため、Azthreonom (SQ 26,776) 1g  $\times$  2 回  $\times$  20 日間の投与を行なった。臨床症状では軽度の改善を認めたが、やはり赤沈亢進、CRP 陽性などの炎症所見の改善は認められず、効果はやや有効と判断した。

症例 4 は 48 歳の男性である。基礎疾患に気管支拡張症を有していた。昭和 58 年 6 月初旬より全身倦怠感、咳嗽、膿性痰、発熱出現。6 月中旬近医受診し、投薬治療を受けたが臨床症状改善せず、7 月 10 日当科入院となった。臨床症状、胸部 X 線所見より気管支肺炎と診断し、Azthreonom (SQ 26,776) 1g  $\times$  2 回  $\times$  10 日間の投与を行なった。臨床症状では膿性痰の減少、発熱の消失がみられ、喀痰の細菌検査では、投与前に分離された *Haemophilus influenzae* の消失がみられたため、効果は有効と判断した。

Table 1 Clinical efficacy of Azthreonom

Case No.	Name	Sex	Age	Diagnosis	Underlying diseases	Microorganisms isolated	A.Z.T		Efficacy		Side effects
							g × time × days	Route	Clinical	Bacteriological	
1	H.T.	M	52	Bronchopneumonia	Bronchiectasis	Unknown	1 × 2 × 7	D.I.	Fair	Unknown	None
2	G.O.	M	33	Diffuse panbronchiolitis	None	<i>H. influenzae</i>	1 × 2 × 16	D.I.	Effective	Turned to negative	None
3	Y.M.	M	68	Pulmonary emphysema + infection	Pulmonary emphysema	Unknown	1 × 2 × 20	D.I.	Fair	Unknown	None
4	S.O.	M	48	Bronchopneumonia	Bronchiectasis	<i>H. influenzae</i>	1 × 2 × 10	D.I.	Effective	Turned to negative	None

## III. 考案および結語

近年、第3世代の抗生物質の開発により、β-ラクタマーゼに安定で、グラム陰性菌に抗菌力を有し、また抗緑膿菌作用も有する抗生物質も登場している<sup>1,2)</sup>。Azthreonom (SQ 26, 776) は、これらの第3世代の抗生物質より同等以上の強い抗菌力を有し、さらにβ-ラクタマーゼに安定であるとされている<sup>3)</sup>。また使用に際して、セフェム系抗生物質ではアレルギー性の副作用、また、まれではあるがアナフィラキシーショックに対する注意が必要である。Azthreonom (SQ 26, 776) は全化学合成品であるのでこうした心配はほとんどない。このたび著者らは、Azthreonom (SQ 26, 776) の治験の機会を得たので、4症例について検討した。その結果、有効例が2症例において認められた。また全例とも副作用は認められず、肝機能にも異常が認められなかった。

## 文 献

- 1) 横田 健: β-lactamase 阻害剤と β-lactamase 抵抗性薬剤の将来。日本臨床 39: 10~17, 1981
- 2) 国井乙彦: セフェム系。総合臨床 32: 1739~1744, 1983
- 3) 横田 健: 新しい抗生物質の使い方—その基礎理論。ライフサイエンス社: 70~72, 1983

---

CLINICAL EVALUATION OF AZTHREONAM (SQ 26,776)  
IN RESPIRATORY INFECTIONS

SHUNSUKE TAKAMI, NOBUOKI KOHNO, MASARU TANABE,

MICHIO YAMAKIDO and YUKIO NISHIMOTO

Secondary Department of Internal Medicine, Hiroshima University, School of Medicine

We have evaluated the clinical efficacy of Azthreonam in 4 patients. They were 2 with bronchial pneumonia, one with diffuse panbronchiolitis and one with respiratory tract infection complicated pulmonary emphysema. Azthreonam (SQ 26,776) was drip-infused at 1 g/dose twice daily for 7~20 days.

The clinical efficacy of Azthreonam was good in 2 patients and fair in 2. There was neither side effects in any patient nor abnormality in the hepatic function.